

第72回全国消防技術者会議の開催報告

消防研究センター

令和6年度の全国消防技術者会議は、11月21日（木）及び22日（金）の2日間にわたり、東京都三鷹市の三鷹市公会堂光のホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表する場として、昭和28年より毎年開催されているものです。また、第62回より、「消防防災研究講演会」を同時開催しています。

21日には、特別講演及び令和6年度消防防災科学技術賞の受賞作品の発表を行いました。また、消防研究センターにおける研究成果等を発表する第27回消防防災研究講演会を行いました。22日には、令和6年度消防防災科学技術賞の表彰式および受賞作品の発表を行いました。消防防災科学技術賞受賞作品の発表は、受賞作品30件のうち、28件（口頭発表18件、展示発表10件）について実施し、展示発表は22日昼休みから午後にかけて隣接する会館の多目的会議室にて行いました。2日間で全国から延べ850人を超える方々の参加がありました。

特別講演では、慶應義塾大学理工学部の中西美和教授に、「安全で効率的な消防活動を実現するためのマネジメントスキル：CRM（Crew Resource Management）」と題してご講演をいただきました（写真1）。CRMは航空分野で開発された概念で、安定した運航のために利用可能な全てのリソース（人的資源、情報等）を有効活用するという考え方です。消防活動においてもCRMスキルを高め、発揮することによって、エラーの発生確率を低下させ、エラーの発生時の影響を小さくすることができることが示されました。また、消防活動のようにチームで活動する場合、隊員間のコミュニケーションにおいて疑問を持ち、問題を認識した時には躊躇なく声に出すこと（アサーション）やそうしやすい雰囲気を作ることの重要性が説明されました。

第27回消防防災研究講演会（写真2）では、「令和6年度能登半島地震における輪島市大規模火災」をテーマとし、消防研究センターからは、「輪島市大規模火災の延焼動態」、「輪島市大規模火災の焼け止まりと街区の特徴からみた今後の課題」、「輪島市大規模火災の市街地火災延焼シミュレーション」という題の3件の発表を行いました。奥能登広域事務組合消防本部の出坂正明氏には、「令和6年度能登半島地震 輪島市大規模火災について」の題目で輪島市大規模火災における消防活動についてご発表いただきました。特定非営利活動法人日本

防火技術者協会の関沢愛氏には、「激震時の同時多発火災と大規模火災リスクにどう備えればよいか～輪島市大規模火災があらためて喚起した課題～」の題目で消防活動障害の発生に対して備えておくべき課題についてご提言をいただきました。消防庁消防・救急課及び予防課からは、「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災のあり方に関する検討会報告書」の題目で消防庁の取り組みについて解説をいただきました。

今回の全国消防技術者会議における表彰式及び受賞者による口頭発表について、会場で録画した動画を消防研究センターHPに口頭発表の1件を除いて、後日掲載予定です。また、全国消防技術者会議における展示発表について、受賞者が事前に作成した発表動画を後日、消防研究センターHPに掲載予定です。次回の全国消防技術者会議の開催につきましては、決定次第、消防研究センターホームページ（<https://nrifd.fdma.go.jp/>）等によりご案内させていただきます。次回の全国消防技術者会議にも多くの方々のご参加をお待ちしております。



写真1 慶應義塾大学 中西美和教授による特別講演の様子



写真2 消防防災研究講演会の様子

問合せ先

消防研究センター
TEL：0422-44-8331（代表）